

歴史と文化がつなぐ「津軽海峡交流圏」形成に向けて

青森県と道南地域の深いつながり

青森県と北海道道南地域は、縄文時代からすでに交流があったとされています。また、1871年に青森県が設置された際に北海道・松前半島の一部が含まれていたこと、道南地域へと移住した人が多いことなど、歴史的・文化的にとっても深いつながりが昔からありました。



縄文時代前期から中期
(約5500年～4500年前)に
栄えた円筒土器文化圏の中心地域



函館市著保内野遺跡
から出土した
北海道唯一の国宝
「中空土偶」



三内丸山遺跡からの
代表的な出土品
「大型板状土偶」
(重要文化財)



北海道産の道具
北海道産の黒曜石で
作られた石槍



北海道産の石で
作られた石斧

λ(ラムダ)プロジェクト



将来的には、札幌圏と仙台圏の間に位置する経済圏へ

北海道新幹線は青森県と道南地域の交流・連携を深める「大きな力」

津軽海峡を挟んだ青森県と北海道道南地域をひとつの圏域とする「津軽海峡交流圏」の形成を進め、圏域外からの訪れる人の増加や経済発展にもつなげていくため、「λ(ラムダ)プロジェクト」に取り組んでいます。北海道新幹線開業効果の最大化に向け、圏域内の経済効果につなげていくことを目指しています。

青森県と道南地域の現状

- 観光**
青森県と道南地域を周遊する旅行商品が増えた。
- 教育**
青森と道南地域の多くの学生がそれぞれの地域の大学に進学。
- 修学旅行**
小・中学校の修学旅行の目的地は、青森から道南、道南から青森が多い。
- 交通**
北海道幹線開業により、青森・函館が通学通勤可能な時間距離になった。
- ビジネス**
企業連携によるコラボ商品の誕生、広域的事業の展開。

将来の姿

- 青森県と道南地域の周遊が圏域内外で定着する。
- 通学エリアになることで、進学に係る選択肢が増える。
- 周遊コースを使った学習が可能となり、子どもたちの学びの場が拡充する。
- 青森県と道南地域が通勤圏になる。
- 新たな商品が増え、事業規模が拡大する。

北海道新幹線が青森県と北海道の時間距離を約4分の1まで短縮！

1908年就航の青函連絡船の時代は青森から函館までは約4時間、1988年から運行された津軽海峡線でも約2時間かかっていましたが、2016年3月の北海道新幹線開業により新青森・新函館北斗間は約1時間で結ばれ、両地域の時間距離は大幅に短縮されました。また、2019年3月には、57分へと更に短縮されました。

	青森	函館
青函連絡船		約4時間
津軽海峡線	新青森	函館
		約2時間
北海道新幹線 (2019年3月)	新青森	新函館北斗
		57分

津軽海峡交流圏のすがた

青森県の40市町村と北海道の渡島地域の11市町村、檜山地域の7町の人口を合わせると約175万人。人口規模では仙台圏を上回ります。

	青森県	道南地域 (渡島+檜山)	津軽海峡 交流圏
人口 (万人)	131	44	175
面積 (km ²)	9,646	6,568	16,214
総生産 (億円)	44,432	13,658	58,090
観光客数 (万人)	3,501	1,322	4,823

※人口は、札幌都市圏 約236万人、仙台都市圏 約153万人

出典：平成27年国勢調査、全国都道府県市区町村別面積調(令和2年7月1日時点)、平成29年度青森県県民経済計算、平成29年度道民経済計算、平成30年度青森県観光入込客統計、平成31年度北海道観光入込客数調査報告書



λ(ラムダ)って？

ギリシャの文字。新函館北斗駅から新青森駅・八戸駅への新幹線ルートと、新青森駅から弘前駅への奥羽本線ルートを合わせると、この「ラムダ」の形に。裏返すと「人」。海を越えて、人がつながっている様子を表現しています。